

水田周辺の牧草地等で斑点米カメムシ類が急増しています

稲の出穂が早まっています，防除適期を逃さないよう注意してください！

- ・作物名：水稲
- ・病害虫名：斑点米カメムシ類(アスジカスミカメ)
- ・対象地域：県内全域
- ・予想発生量：多
- ・発生時期：やや早い(本田侵入始期：7月第6半旬)

巡回調査：7月15～16，19～21日

定点調査ほ：大崎市古川(古川農業試験場)

1 予報の根拠

- (1)巡回調査の結果，水田周辺の牧草地等でのアスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数は62.7頭で平年(19.2頭)より多かった(図1)。
- (2)定点調査の結果，牧草地のアスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数は平年を上回っており，7月第4半旬に急増が確認された(図2)。
- (3)北部平坦部での中生品種の出穂期は7月30日頃と予測され，平年(8月3日)よりやや早い見込みである(7月20日現在)。

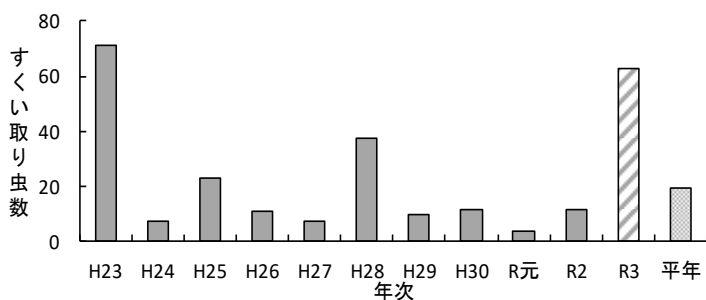


図1 牧草地・雑草地・畦畔におけるアスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数の年次推移(7月中旬)
(病害虫防除所 20回振り 平年:10か年平均)

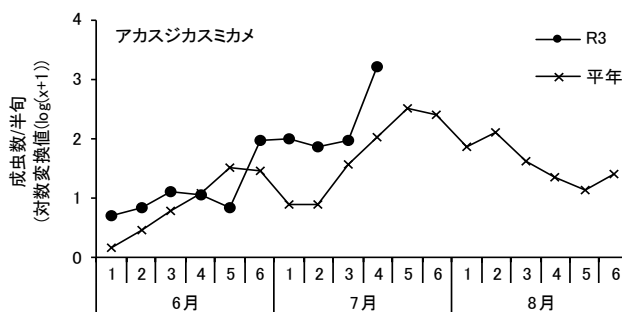


図2 牧草地におけるアスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数の推移(半旬別)
(古川農業試験場 20回振り 平年:10か年平均)

2 防除のポイント

- ・水田内の薬剤防除の時期は，穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本である。今年の水稲の出穂が平年よりやや早いと見込まれるため，防除が遅れないように注意する。なお，斑点米カメムシ類の主な薬剤は表1を参照のこと。
- ・水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを水稲の出穂期前後に行うと，斑点米カメムシ類を水田内に追い込み斑点米被害を助長するため，原則行わない。やむをえず草刈りを行う場合は，草刈り後直ちに本田の薬剤防除を実施する。
- ・水稲の出穂期前後に牧草を刈り取る場合は，水田の薬剤防除スケジュールを考慮して実施する。
- ・イヌホタルイが多発しているほ場は斑点米カメムシ類の被害が大きくなる。除草しきれなかったほ場では，1回目の薬剤散布時期を「出穂始～穂揃期」に早めることで，斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できる。

- ・大型のクモヘリカメムシの発生がみられる場合は、登熟中期以降の幼虫の発生を抑制するため、2回目の防除が重要となる。また、2回目の散布以降も発生がみられる場合、追加防除の実施が有効である。

※1 普及に移す技術第 93 号参考資料「アカスジカスミカメの多発条件下における殺虫剤による茎葉散布処理の効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/685973.pdf>

(追補) <https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/735194.pdf>

※2 普及に移す技術第 83 号参考資料「イヌホタルイ発生水田におけるアカスジカスミカメの防除適期」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69951.pdf>

※3 普及に移す技術第 88 号普及技術「イヌホタルイ発生量に基づく斑点米被害リスク評価」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/223214.pdf>

表1 斑点米カメムシ類の主な薬剤(令和3年度宮城県農作物病害虫・雑草防除指針より抜粋)

薬剤名	使用量・希釈倍数・散布液量	使用時期	使用回数	IRACコード (有効成分)
キラップフロアブル	1,000~2,000倍, 60~200L/10a	収穫14日前まで	2回以内	2B(エチプロール)
	無人ヘリコプター 8~16倍, 0.8L/10a			
キラップ粉剤DL	3~4kg/10a			
スタークルメイト液剤10	1,000倍, 60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	4A(ジノテフラン)
	無人航空機 8倍, 0.8L/10a			
スタークル液剤10	1,000倍, 60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	4A(ジノテフラン)
	無人航空機 8倍, 0.8L/10a			
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍, 60~150L/10a			
スタークル粉剤DL	3kg/10a			
エクシードフロアブル	2,000倍, 60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	4C(スルホキサフロル)
	無人航空機 16倍, 0.8L/10a			
エクシード粉剤DL	3kg/10a			
キラップジョーカーフロアブル	1,000倍, 60~200L/10a	収穫14日前まで	2回以内	2B/3A(エチプロール/シラフルオフェン)
	無人ヘリコプター 8倍, 0.8L/10a			
スタートレボンW10	1,000倍, 60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	3A/4A(エトフェプロックス/ジノテフラン)
	無人航空機 8倍, 0.8L/10a			
トレボンスターフロアブル	1,000倍, 60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	3A/4A(エトフェプロックス/ジノテフラン)
	無人ヘリコプター 8倍, 0.8L/10a			

※令和3年7月21日現在の登録内容(IRACコードは、殺虫剤の作用機構分類を表す)

※使用回数は有効成分毎の総回数のため、他の薬剤で同一の有効成分を含む場合があるので注意する。

ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。特に、ミツバチ被害防止のため、周辺の養蜂家との間で情報共有に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

農薬危害防止運動実施中！(6月1日～8月31日まで)